

Windhoek → Lüderitz

ひとつのアフリカ

チーム2が南アフリカ・ダーバンに到着した。翌日、TSAM テストコースを訪れた。キャプテンの梅田は「アフリカの求めるものは何かを知りたい」と語る。ローカル・リーダーのケビンとの顔合わせの際「One heart, One team Africa!」と挨拶があった。梅田はその言葉に一つ加えたい言葉があると言う。「最後に“One”を加えたい。”One Heart, One Team, One Africa!”。走破にはサポートしてくれるTSAM、ローカルのメンバーたちの助けが必要。チーム2の走破後に、ワン・アフリカを感じたい」。

チームは土曜日の早朝、ダーバンからナミビアの首都ウイントフックに到着した。月曜は車両の整備やナビゲーションの設置、火曜から走破がスタートする。車両技術開発部の坪井は休日に、デザートサファリ用のカーレンタルを見学していた。約20台のクルマはすべてト

ヨタ製でハイエースをキャンピング仕様にしていた。ハイエースの傍に、大量のショックアブソーバーが捨てられているのを見つけた。「未舗装路を長時間走ると、細かな振動でサスペンションオイルが沸騰する。サスペンションは消耗品だ」と店の人は笑った。振動でボルトが





抜け、サスペンション・アームがボディに当たることもあるようだった。明らかに過積載であり、評価の範囲外だ。「しかし、これがアフリカの現実」と感じた。「私はサスペンションは専門外。自分だけで解決はできないかもしれないが、声をあげるのが今回のプロジェクトに参加した使命だと思う」。

もっと身近にオフロードを

チーム2は大西洋に面した町・スワコプムントに向かった。道はやがて未舗装路



に変わる。地質により様々な表情がある。トヨタ車体 第2車両性能開発部の男成は対向車や先行車両の巻き上げる砂埃には「雪道と同じで対応できた」と笑う。「雪煙は左の路肩を見ながら、前を見ていれば、道沿いに走れますから」。北海道の雪道を走る機会が多く、その時の経験がいかされたようだった。「何が役に立つかわからない。アフリカの経験もやがて何かに役に立つはずです」。スワコプムントでチーム2に用意されたスペシャルステージ(SS)は砂漠走破だった。ナミブ砂漠をオフロード車で砂漠走行を楽しむカルチャーが生まれている。ランドクルーザーの開発に携わる車両技術開発部山田の目は常に、日本と海外両方のユーザーに向けられている。「ランクルは必ず生きて帰ってくる信頼性のあるクルマでなければならない」。開発者にとって、ナミビアの砂漠は恰好の検証地だった。今回は他のメンバーの走りが参考になったという。

山田は真剣な面持ちでハンドルを握るメンバーを見て思う。「もっと身近にオフロードを感じてもらえるよう、車両性能をつくり込んでいかなければ」。ナミブ砂漠走行という得難い体験をしたチーム2は砂漠の街・セスリエムに向かう。

説得力の獲得

セスリエム付近にはホテルがないため、テントを設営しての宿泊となった。営業企画部の小菅は言う。「ディストリビューターから、どんなクルマを欲しているかが届く。しかし、全世界の要望は叶えられない」。クルマづくりを共に考える者同士、常に熱い意見交換が交わされる。「対話には人間力が必要。さらにクルマや地域を知らなければならない」。その説得力の獲得に、小菅はアフリカ走破が一助になるのではないかと考えている。チームはナミブ砂漠から港

町・リュエデリッツへとクルマを走らせる。全行程 552 キロのほとんどはオフロードだ。標高もおよそ 1500 メートルから海へと向かう。SUZUKI から 5 大陸走破に参加している四輪商品・原価企画部の隅田はローカルドライバーや TMC メンバーに気さくに話しかけている。同乗したメンバーに、オフロード時のブレーキングのタイミングや無線の使い方をアドバイスすることがあった。よくオフロードを走ると隅田に聞くと「先日、TSAM のマイクさんに教えてもらったことをそのまま、お伝えしたまです」と言う。アフリカの道は直線だけではなく、起伏やブラインドコーナーが多い。100 キロ以上の速度で走るクルマ同士が未舗装路ですれ違くと、砂埃が舞い、しばらくの間視界はほとんどなくなる。「日本ではドライバーがその領域に行けないように管理されていますが、ナミビアではドライバーの責任や能力で、自身を守らなくてはならない」。

事故を防ぐために、運転時の注意点やクルマの変化に気がつく隅田は同乗メンバーに伝える。もちろん、すべては自分たちや現地の人々の安全のためだ。隅田は 5 大陸走破でアフリカを訪れる前、田原工場の走行講習を受けた。その際に、多くの気づきを得たと言う。「トヨタのすごいところは、何度も教育をすることです。その上で現地のローカルメンバーからも指導を受ける。クルマのことを濃密に学べる環境にいることに感謝しています」。しかし、と隅田は付け加える。「クルマの窓から見えることだけがアフリカではない。目の前に“お客様”がいる。もっと、現地の人と話をしてもいいのではないか」。5 大陸走破は多様性の旅でもある。国、性別、会社、役職の垣根を乗り越えて、一つの目的に進んで行く。週末の休暇後、月曜日には砂漠の中の町ケートマンズフープへ向かう。



距離：1,532km
 期間：2018.10.9-12
 日数：4日間
 車両：Fortuner、Land Cruiser 200、Hilux Double Cab、Land Cruiser 79 Double Cab、Land Cruiser Prado

